

大阪府景気観測調査結果

平成21年10～12月期

大阪府立産業開発研究所では、府内企業を対象として四半期毎に、大阪市と協力して景気観測調査を実施しております。平成21年10～12月期の調査結果の概要は次のとおりです。

[景気は、横ばいで推移し、厳しい状況が続いている]

業況判断DIは、横ばいで推移し、未だ低い水準にある。出荷・売上高DI、営業利益DIは改善しているが、依然として低水準である。また、設備投資は減少し、雇用も厳しい状況にある。来期の業況見通しは、改善を見込むが弱い。景気は未だ厳しい状況が続いている。

[調査結果の要点（平成21年10～12月期）]

業況判断 ... 横ばいで推移し、依然として低い水準

平成21年10～12月期の業況判断DI（「上昇」 - 「下降」企業割合；前期比、季節調整済）は - 42.9 となり、前回調査（21年7～9月期）と比べると、1.6ポイント低下。業種別や規模別では、前回調査と比べ、製造業で2.7ポイント上昇したが、非製造業で3.6ポイント低下、大企業で0.6ポイント上昇したが、中小企業で2.2ポイント低下。

業況判断（前期比）の下降要因を前年同期の調査と比べると、「販売・受注価格の下落」、「他社との競合状況」が増加。

出荷・売上高 ... やや増加

出荷・売上高DI（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 35.6 となり、前回調査と比べ、3.7ポイント上昇。規模別では、前回調査と比べ、大企業は4.8ポイント低下、中小企業は4.2ポイント上昇。

製・商品単価及び原材料価格 ... 低下

製・商品単価DI（「上昇」 - 「下落」企業割合）は、前回調査と比べ1.4ポイント低下の - 34.3。原材料価格DI（「上昇」 - 「下落」企業割合）は、前回調査と比べて4.0ポイント低下の - 0.6 である。

営業利益 ... 改善

営業利益判断DI（「黒字」 - 「赤字」企業割合）は - 27.8。前回調査と比べると、8.3ポイント上昇し、業種別・規模別のいずれも改善。

営業利益水準DI（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 36.2 と、前回調査と比べると、4.1ポイントの上昇。規模別では、前回調査と比べると、大企業は0.7ポイント低下、中小企業は4.3ポイント上昇。

資金繰り ... やや改善するも、依然として厳しい

資金繰りDI（「順調」 - 「窮屈」企業割合）は - 14.0 と、前回調査と比べ2.1ポイント上昇（前回は同2.7ポイント上昇）。

設備投資 ... 減少

設備投資は前回調査と比較して「増加」は上昇、「減少」は低下、「なし」は横ばいとなったが、前年同期の結果と比較して、「増加」は低下、「減少」は上昇、「なし」は上昇と、設備投資は減少している。

雇用状況 ... 過剰感は和らぐものの、厳しい状況にある

雇用過剰感DI（「過剰」 - 「不足」企業割合）は13.4 であり、前回調査より3.0ポイント改善。21年10～12月期の雇用予定人員DI（「増加」 - 「減少」企業割合）は - 11.8 で、前年同期の調査と比較し、1.3ポイント低下。

来期の業況見通し ... 増加を見込むが、その幅は小さい

22年1～3月期の業況見通しDI（「上昇」 - 「下降」企業割合；季節調整済）は - 37.9 と、今期業況判断（季節調整済）と比べ、5.0ポイント増加の見通しである。

調査結果に関するお問い合わせは (06)6947-4363
大阪府立産業開発研究所 調査研究部 動向調査研究グループまで